

平成24年3月14日

各位

会社名 株式会社ホッコク
代表者名 代表取締役 大浦 真里枝
[JASDAQコード 2906]
問合せ先 経営企画室 近藤 茂
TEL 03-3512-4005

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年11月14日に公表した業績予想を修正するとともに、下記の通り特別損失の計上を行うこととなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成24年3月期連結・個別業績予想の修正等

(1) 平成24年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	3,017	△217	△197	△175	円 銭 △10.61
今回修正 (B)	3,017	△217	△197	△554	△33.50
増減額 (B-A)	—	—	—	△379	—
増減率	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成23年3月期)	9,237	△1,218	△1,514	△2,692	△174.43

(2) 平成24年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	2,868	△74	△54	△32	円 銭 △1.96
今回修正 (B)	2,868	△74	△54	△411	△24.85
増減額 (B-A)	—	—	—	△379	—
増減率	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成23年3月期)	3,448	△1,010	△1,482	△2,815	△182.43

2. 修正の理由

当社グループは平成 23 年 3 月期まで 2 期連続で営業損失を計上しております。そこで当社は、経営体質の改善および財務体質の強化を喫緊の課題として掲げており、早期のコーポレートガバナンスの実現とコンプライアンス体制の構築、企業グループ全体の経営資源の選択と集中による効率的運用、来期単年度黒字化の実現に向けた抜本的構造改革による収益・利益確保施策の実施に取り組んでおります。このような状況のもと、当社は、現在の経営環境の悪化に対応するための収益構造改革の一環として、当該状況を解消すべく①グループの再編、②賃貸用不動産の売却、③どさん子ブランドのリニューアル化による収益力のさらなる強化等の施策を検討し実行してまいりました。

平成 24 年 3 月期第 4 四半期においても、上記施策の推進し、従来の多角化戦略から当社の強みを活かす分野へ「原点回帰」するため、平成 24 年 1 月 31 日に子会社の事業の一部を譲渡いたしました。また、平成 24 年 2 月 14 日に賃貸用不動産として使用していた土地および建物の一部を譲渡しております。その他、直営店舗の統廃合に関する費用発生、一部の固定資産において固定資産評価の乖離が確認されたことから減損会計を適用したこと、過去に計上した貸付金についての回収可能性を勘案し貸倒引当金を計上したこと等をふまえ、平成 24 年 3 月期通期業績予想を修正させていただきます。

当期純利益

(通期連結)

子会社 L P Q J a p a n 株式会社は、日本における「ル・パン・コティディアン」レストランの独占ストアライセンス権を持つ伊藤忠商事株式会社との間で同レストランの日本における展開・運営の権利に関する契約を締結しておりましたが、今後の当社グループにおいて従来の多角化戦略に基づく事業展開を行うことは難しいと判断をしたことから、「原点回帰」を目標に経営資源の選択と集中による効率的運用を行うため、平成 24 年 1 月 31 日に子会社 L P Q J a p a n 株式会社のル・パン・コティディアン直営店事業を譲渡することを決定しました。この事業の一部譲渡に伴い進行期である平成 24 年 3 月期第 4 四半期において子会社株式評価損失約 100 百万円が発生致しました。

(通期個別)

進行期である平成 24 年 3 月期第 4 四半期において、平成 24 年 2 月 14 日付で新潟県長岡市において賃貸用不動産として使用していた土地および建物を譲渡し固定資産譲渡益として約 7 百万円を計上いたしました。

特別損失として、店舗の統廃合を進めたことによる店舗閉鎖損失として約 4 百万円計上いたしました。一部の固定資産において固定資産評価の乖離が確認されたことから減損会計を適用したことで減損損失を約 13 百万円を計上いたしました。また、貸付金に区分されております多膳客（亜州）有限公司、当社の子会社であった株式会社ニッカ食品への貸付金および当社の子会社であった株式会社セルフフィユが金融機関より融資を受けた際に設定された保証債務につきまして、期末における回収可能性を勘案し回収にリスクが存在すると判断をしたことから、それぞれに引当金を計上することとし関係会社貸倒引当金繰入額を約 227 百万円を計上いたしました。外部調査委員会による調査を受けたことによる一連の調査依頼費用ほか約 22 百万円を計上いたしました。その他、進行期である平成 24 年 3 月期第 4 四半期において、上記（通期連結）に記載のとおり、平成 24 年 1 月 31 日に子会社 L P Q J a p a n 株式会社の事業の一部譲渡したことに伴い、子会社株式評価損失約 100 百万円を計上いたしました。

以上により、連結及び個別当期純利益の各数値につきましては、平成 24 年 3 月期通期業績予想数値の修正の表のとおりに変更いたします。

3. 特別損失について

「2. 修正の理由 当期純利益（通期個別）」をご参照ください。

4. その他

今後の展開として、上記の保有資産の譲渡で得た収入によって、譲渡不動産の担保に見合う長期借入金を返済し、有利子負債を軽減することにより総資産の圧縮を図ります。また、余剰資金により既存事業の再構築および既存事業を含めた事業展開への投資資金として活用することで、短期的な収益力の強化と、財務の強化を図ることで早期の業績回復を目指しております。

また、今回発表の業績予想の数値および参考である前期実績に関しましては、本日発表の各過年度決算訂正の数値を反映しております。

※業績修正につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上